

令和8年度第1回ふくしまデジタル推進協議会議事録

日時：[令和8年4月22日（水）13時30分～15時10分]

場所：[福島市 市民センター 303会議室]

次第：

- 1 開会挨拶
- 2 新会員紹介
- 3 事例発表
ふくしまデジタルイノベーションアワード2025 大賞受賞
東北日東工器株式会社 様
「工場移転を“DXを起点”に、AIで実現した倉庫改革」
- 4 令和7年度会員間マッチング事業紹介
- 5 その他
- 6 閉会

開会挨拶 馬場雄基（福島市長）

今回の協議会より、報道、金融、人材育成の分野から新たに8社が参加したことを紹介し、昨年度にふくしまデジタルイノベーションアワードの大賞受賞を果たした東北日東工器株式会社を例に挙げ、受賞団体への祝意を述べるとともに、その成功事例を他社と共有する重要性を強調した。

デジタル技術について、「課題感を持つよりも、楽しさや可能性を共感し合える場にしたい」と述べ、協議会を知恵の共有の場として活用することを提案した。

福島市が導入している書かないワンストップ窓口や、アプリを利用した乳幼児健康診査の事例を挙げて、市民の生活や利便性が向上していることを説明した。

デジタル技術を活用することで、市民の暮らしの安心・安全、さらなる利便性につなげることを重視し、協議会をそのきっかけにしたいとの期待を表明した。

最後に、本協議会をきっかけとして一緒に歩み出す意義を参加者に改めて呼びかけた。

新会員紹介

ふくしまデジタル推進協議会の令和8年度新会員のうち、当日参加者の株式会社福島民報社、福島民友新聞社、テレビユー福島、福島コミュニティ放送株式会社、株式会社東邦銀行、デジタルハリウッドSTUDIO福島の代表者より、自己紹介と各社のDX推進状況について共有が行われ、デジタル化・DXが目指すべき方向性として以下の取り組みが見えました。

- 社員間の意識醸成と教育を通じた格差の是正。

- デジタルを活用した業務効率化による人手不足の解消。
- ハイブリッドな情報提供方法（紙媒体の価値を保持しつつデジタル化を推進）。
- 地域社会との連携を深め、デジタル技術による価値創造。

それぞれの企業が持つ独自の取り組みが相互に補完し合うことで、地域全体のDX推進に向けて進展が期待される。

事例発表

東北日東工器株式会社・小倉孝喜氏が、ふくしまデジタルイノベーションアワード 2025 受賞事例を発表。新工場移転プロジェクトを機に DX を進め、在庫管理業務の効率化アプリを自社開発。2週間で始動し、作業時間の削減・時短を達成。聴講していた会員からは「スモールステップでの取り組み」の重要性が強調されると共に、発表者からは地元企業との連携への意欲が示された。

<参考：ふくしまデジタルイノベーションアワード表彰内容について>

<https://www.city.fukushima.fukushima.jp/soshiki/2/1004/1/8/16917.html>

令和7年度会員間マッチング事業紹介

事務局より令和7年度における会員間コラボレーションの成果が報告された。以下の4事業が紹介された。（詳細は会議資料参照）

1. 福島中央計算センターと BlueOcean & Company と福島市教育委員会の連携
2. 福島大学と福島市地域包括支援センター連絡協議会の連携
3. 福島中央計算センターと福島市教育委員会の連携
4. カトウファームと BlueOcean & Company の連携

<参考：令和7年度の会員間マッチング事業>

<https://www.city.fukushima.fukushima.jp/soshiki/2/1004/1/4/14744.html>

その他

事務局より以下の活動報告がされた。(詳細は会議資料参照)

- 令和7年度のふくしまデジタルイノベーションアワード、DX ミートアップの成果。
- 令和8年度における活動方針として、AI を重点に置いたセミナーやイベントの開催予定。

まとめ

1. **新会員による DX 実施状況と課題対策**
各会員の活動が紹介され、課題の共有化と取り組みの連携の重要性が確認された。
2. **事例発表の方向性**
スモールステップでの DX の進め方が評価され、参加者への具体的実践方法の共有が今後も検討されることが確認された。
3. **令和8年度の重点分野**
AI を中心とした活動計画が策定され、セミナーやワークショップの開催が予定されている。
